

2012年 新年のご挨拶



総看護師長
森岡 徳子
Tokuko Morioka

新年あけまして、おめでとうございます。

昨年は、東日本大震災が起こり、今なお心の痛みが続いています。同い人も震災直後から支援活動に取り組み、宮城県、福島県を中心に21名の看護師が、医療・看護支援活動に参加しました。その中で、街づくりとして、震災対策に取り組む必要があると痛感しています。

今年は、いよいよ新病院建設着工に向かう年です。震災対策として、また、安心して住み続けられる街づくりとしての建設を目指したいと思います。

社会保障の切り捨てが進む中で、医療に掛かれず、重症で運び込まれる方も多くおられます。また、「住み慣れた家で過ごしたい」という願いに応えて、家での看取りを行なった一人暮らしの患者様も居られました。これからも、地域での生活を支える医療機関として、地域の皆様と連携を深め、役割を果たしていきたいと思ひます。どうぞ、よろしくお願ひいたします。



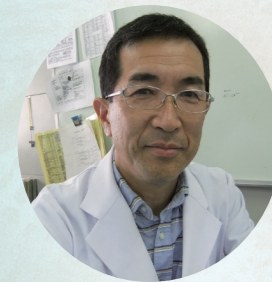
事務長
近藤 聡
Satoshi Kondou

旧年中はなにかとお世話になり、ありがとうございました。

未曾有の大震災では、民医連の病院が地域の拠点として活躍をしました。当院も耐震性の高い新病院を建設し、災害時には避難所としてではなく、医療を継続できるような施設、システムをもった病院を目指します。

政権交代から2年半がたち、民主党政府は貧困と格差をもたらした自公政権の政策に回帰しています。経済的な問題で当院の相談室をたずねる方も後を絶ちません。地域で悩みを抱えておられる方はもっと多いと思われまふ。病院の大事な価値の一つは安心を与えることだと思ひます。受診してよかつた、ここに耳原があつてよかつたと思つてもらえる病院へ少しでも近づけるように、地域の方々、医療機関のみなさん、諸機関・諸団体のみなさんと連携・協力して、努力していきたくと思ひます。

いよいよ新病院着工の年、ますますのご指導、ご協力をよろしくお願ひいたします。



主任副院長
総合診療科 医師
斉藤 和則
Kazuori Saitou

医師会の会合に出席した際、会長さんからTPPに反対との医師会の姿勢説明がありました。続いては担当役員さんからTPPへの参加で50年を経た皆保険制度が崩される、若い世代のためにがんばろう、とのご提案でした。日米間の交渉で食い止められる、という人もいます。しかし米国が年次要望書で長年日本に迫っていることからすれば、阻止するのは簡単ではないでしょう。

農業分野は早くからTPP参加の危険性を世間に訴えていました。日本の農業はこれまでかなり関税を引き下げてきており、さらに下げても米国は得をしないでしょう。その点からすると高齢者が増え、保険、薬で儲けられると米国は踏んだのだでしょう。本丸は医療ですね。

日本は昔、治外法権の撤廃と関税自主権の確立を苦勞の交渉の末成し遂げました。いままた同じ位置にたたされています。TPPの日米両政府の意図とISD条項といった極めて不平等な内容を多くの人に伝えまふ。



副院長
救急診療科 医師
田端 志郎
Shiro Tabata

新年明けましておめでとうございます。昨年は当院へのご協力、ご支援を頂きまして誠にありがとうございました。

本年もよろしくお願ひ致します。

私は救急外来の責任者をしています。2010年の1年間に救急外来を受診された患者さんのうち、社会的問題のためにすぐにソーシャルワーカーに相談を必要とした41名の方の調査を行いました。医療費が払えないなどの金銭的問題が多くを占め、働き盛り世代の男性が多く、無保険者と国民健康保険加入者がほとんどでした。当院の無料低額診療制度を利用して頂いたり、行政手続きを経て生活保護を取得して頂いたりして治療を行いましたが、社会のセーフティーネットが十分に機能せず、我慢を重ねて救急受診されている構図が伺えました。

当院は、これまで同様「最後のより所」としての役割を果たすと共に、皆様と協力して社会保障制度の後退を許さない活動を今年も行ってゆきたいと思ひます。

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中はひとかたならぬご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

2011年は大震災やヨーロッパの金融不安に代表されるように国内外を問わず、あらゆる意味におきまして激動の年となりました。私たちの耳原病院にとっては、昨年末の土地取得によって、新病院建設がますます現実味を持ってきております。2000年のセラチア院内感染事故以来11年が経過する中で、皆様方の厚い御支援により今日を迎えさせて頂いておりますが、消費税増税やTPP導入による国民皆保険の崩壊など社会の流れを鑑みましても、次世代に向けて、新たな医療展開を構築して行く責務を痛感する次第でございます。

新病院の建設に当たり、院内の感染対策の責任者である私の役目は、ハード面での感染対策とソフト面である職員の意識改革を進めていくことであると認識しております。その為にも、本年は心新たに職員ひとりひとりが初心に立ち返り、一人の院内感染者もださないよう鋭意努力してまいる所存でございます。何卒、ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。



副院長
小児科 医師
田中 充
Misuru Tanaka

新年明けましておめでとうございます。

昨年からは健診・組織(友の会)の担当になった田中充です。

普段から先生方のご協力をいただき耳原総合病院もようやく新築の予定に漕ぎ着けました。建物の設計図は出来ました。これからは先生方に利用して頂きやすいソフト面に力を注いで行く所存です。予約がしやすく・患者さまの送迎で便利な病院になるよう、今年からは私も精一杯努力させていただきます。

また、新病院では病院機能以外にコミュニティ機能を持つ講堂・レストランを別の建物に作ります。患者さま以外も来なくなる・人が集まる施設になりたい。働く人も生き生きして、あの病院で働きたい・ボランティアをしたい・集まって勉強をしたい・教えてあげたい...など、自分の持っている物をみんなと分けあえる場所になったらいいな、と考えています。

それでは先生方の今年一年のご健康とご活躍をお祈りいたします。



副院長
泌尿器科 医師
田原 秀男
Hideo Tahara

謹んで新年のお慶び申し上げます。旧年中は何かとご厚情を賜り御礼申し上げます。本年もご指導のほどよろしくお願ひ致します。

2011年から地域連携室の担当となり、「みみはらの窓」「ばーとなー」を初め、年2回の堺市病院ネットワーク情報交換会などでお世話になっています。既に御承知のことは存じますが、耳原総合病院は新病院建設が決定し2015年には地下1階、地上14階の高層建築になる予定です。しかしその前後数年以内には市立堺病院の移転、その跡地へ清恵会病院の急性期部門の移転、ベルランド総合病院の建て替えが決定しており、堺市の医療圏で大きな変動が予定されています。当院にとっては激動の数年間を迎えることになりそうです。新病院建設を喜んでばかりはいられません。皆様にも安心して紹介、受診して頂けるよう職員の技能の更なる向上、地域の皆様の意見も取り入れた体制の改善、強化をおこなっていく必要性を感じています。

今年も先生方のご健康とご活躍をお祈りすると共に、当院に対するご指導のほどよろしくお願ひ致します。



副院長
リハビリテーション科 医師
三宅 徹也
Tetsuya Miyake

新春を寿ぎお祝ひ申し上げます。旧年中は何かとご厚情を賜り御礼申し上げます。本年もよろしくご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。

当院では、障害者・高齢者が住み慣れた街で健やかに過ごせるよう、その人の可能性が最大限生かせることを目標に入院・通院・訪問・通所リハビリテーションを提供しています。通院リハビリテーションは体制上の問題から現在は法人内での援助にとどまっていますが地域の皆様方へのご支援ができるよう体制づくりを進めています。脳血管障害・パーキンソン病等の変性疾患に対する入院リハビリテーション等ご相談にのれるよう努めたいと思っております。

本年は、いよいよ新病院建設が始まります。地域の方が利用しやすい環境・体制づくりをめざしCSの向上を図っていきます。この点に関しましてもご指導よろしくお願ひいたします。

